

病院長退任のご挨拶

病院長退任にあたって

琉球大学医学部附属病院前院長 琉球大学大学院胸部心臓血管外科学講座 教授 國吉幸男



この度、昨年度3月31日をもって第12代病院長を退任いたしました。在任中は大変なご支援を頂き、本誌面を借りまして感謝申し上げます。

さて、附属病院長に就任するにあたって御誌に

今後の附属病院経営の重要性を強調し、経営改善にむけて努力することを記しました。国立大学が法人化して以来、附属病院の経営はほぼ独立採算制に移行しています。実質的に多くの病院職員の給与や、診療に関するコストはその利益で賄われ、特に高度先進医療を行う際の当初の諸経費は“持ち出し”で行われています。高価な診療機械の入手も自らの経営努力を行い資金を調達する必要があります。しかし現状では本附属病院は大きな不採算部門があり、毎年億単位の大きな赤字が出るため、年度毎の収支決算がトントンでは最終収支はマイナスとなり、新しい医療や先進医療を取り込む予算が出てこないどころでなく、病院経営自体が立ちゆかなくなりかねません。私共、執行部はこの状況を見据え、診療部門からの収益増加をはかる方略を行いました。まず、来院新患者を増加させる目的で、附属病院で行われている先進医療を中心とした優れた診療内容を県民により周知して頂くために「県民公開講座」を開設しました。昨年7月から開始し、本年5月には第11回が開催されました。内容は各診療科における、全国にも誇れる得意分野を中心として、一般県民にもわかりやすく講演して頂きました。毎回、会場の県立博物館は満席状態で、講演後の質問コーナーには長い列が出来ており、多くの県民の関心の高さを示しており、病院の月別統計でも新患患者の増加につながっています。と同時に、入院単価を増加させるべく担当副病院長を中心として各診療科と面談を行い、無駄をなくし効率的診療を行うべく具体的に話し合ってもらい、その結果大きく診療単価を伸張させ得ることが出来ました。ま

た、職員が一丸となってこの難局に取り組むために執行部や院長の診療方針をいち早く伝える目的で電子カルテによる院長Letterを開設いたしました。会議での合議事項を迅速に末端まで伝達するには有効な手段であったと考えており、各職員の“コスト意識”が大きく変化したものと考えています。他ジェネリック薬品の積極的導入によるDPC係数の改善等も同時に行ってまいりました。これらの諸策の結果については、今後の多面的な評価や当該年度の最終的な収支結果を待つこととなりますが、伝え聞こえてくる情報によりますと、試算として昨年度の収支は不採算部門の赤字を埋めてなお収支がトントンの状態とのことであり、有効な施策であったのではと考えています。これもご協力頂きました多くの職員皆様のご協力およびご努力による結果であると大変うれしく思っています。

現在、附属病院はその再整備として西普天間への移転に向けての計画が進行中です。移転新築により、ますます病院機能が進化発展していかなければなりません。それは国際医療拠点形成への参画ということですが、現業としての附属病院機能向上が最も重要視されるべきポイントであり、そのことが島嶼県である沖縄県の地域医療へ大きく貢献するものと考えています。

最後に、同窓会の会員皆様におかれましては益々のご発展と同時に、相変わらぬ附属病院へのご支援、ご鞭撻が賜りますれば大変幸甚に存じます。

